

2021年度退職教員



みかわ けい
美川 圭 教授
日本史研究学域
日本史学専攻
2012年4月着任



さの まさき
佐野 まさき 教授
言語コミュニケーション学域
言語学・日本語教育専攻
~~2002~~2002年4月着任
1993

入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では約16,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生の皆様や文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。

入会にあたっては、終身会費として1万円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展、ならびに、学生・院生の支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

文学部校友会入会手続きについて


2006年度以前にご卒業の方が新規にご入会いただく場合は、文学部校友会事務局までご連絡いただくか、文学部校友会HPの入会申込フォーム(下記 URL 参照)よりお申込みください。

▶ **立命館大学文学部校友会事務局**

☎ 075-465-8187(文学部事務室内)

✉ ltalumni@st.ritsumei.ac.jp

🌐 <https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/ltalumni/entry/>



原稿募集

文学部校友会報 LETTERS(年一回発行)では「校友の『いま』(近況報告)」、「伝言板(同窓会案内)」などの原稿を募集しています。詳しくは文学部校友会事務局までお問い合わせください。

訃報

- **名誉教授 伴 利昭 先生** 2020年8月22日ご逝去
〈文学部の在職期間:1976年4月～2004年3月〉
 - **名誉教授 鈴木 富志郎 先生** 2021年1月21日ご逝去
〈文学部の在職期間:1972年4月～1998年3月〉
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会への支援

下記に該当する同窓会活動に関する経費を補助します。

クラス・ゼミ等同窓会

正課の小集団科目に関する同窓会
※正課外の同窓会においては
常任幹事会が承認した同窓会も対象

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が
参加するもの

補助内容

同窓会開催、案内状送付、会報や記念誌の印刷、同窓会 HP 作成など、同窓会活動に関わる経費。

★同窓会開催をご検討されている方は、**事前に文学部校友会事務局までご相談ください。**

申請団体	補助の根拠	補助金支給上限額
クラス・ゼミ同窓会	①事前申請書に担当教員の確認印。教員に確認が取れない場合は文学部校友会事務局へ相談。 ②文学部校友会会員が3名以上参加するもの。	10,000円(実費) ※領収書必須
専攻・プログラム同窓会	①同窓会規約。規約がない場合は事前申請書に専攻主任または教員の確認印。 ②文学部校友会会員が3名以上参加するもの。	100,000円(実費) ※領収書必須

申請方法など、詳細はこちらをご参照ください。

▶ **同窓会活動・補助—申請書類・流れ**


🌐 <http://www.ritsumei.ac.jp/ltalumni/dousoukai/workflow.html/>



同窓会活動補助費の事前申請がWebでできるようになりました!

▶ **活動補助費申請フォーム**

🌐 <https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/ltalumni/dousoukai/>



伝言板

- **2021年度 地理学同窓会総会(地理学・地域観光学会合同)**
日 時 2021年11月27日(土)
※総会のみ開催となります(懇親会は開催しません)。開催方法及び詳細は同窓会だより、または同窓会 HP(下記 URL)にてご案内する予定です。
🌐 http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/asp/alumni/geo_alumni_society.html
- **哲学同窓会** ※2021年度の同窓会開催は未定です。
開催が決定しましたら会報、哲学同窓会 Facebook 等でお知らせいたします。
- **英米文学同窓会** ※2021年度の同窓会開催は未定です。
開催が決定いたしましたらご案内を送付いたします。



立命館大学文学部校友会会報 2021年 第13号

2021年6月発行 立命館大学文学部校友会 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

☎075-465-8187 🌐 <http://www.ritsumei.ac.jp/ltalumni/>  **Facebook** もご覧下さい。

立命館大学
文学部校友会
ホームページ



立命館大学文学部校友会会報

Vol.13 2021

LETTERS

College of Letters

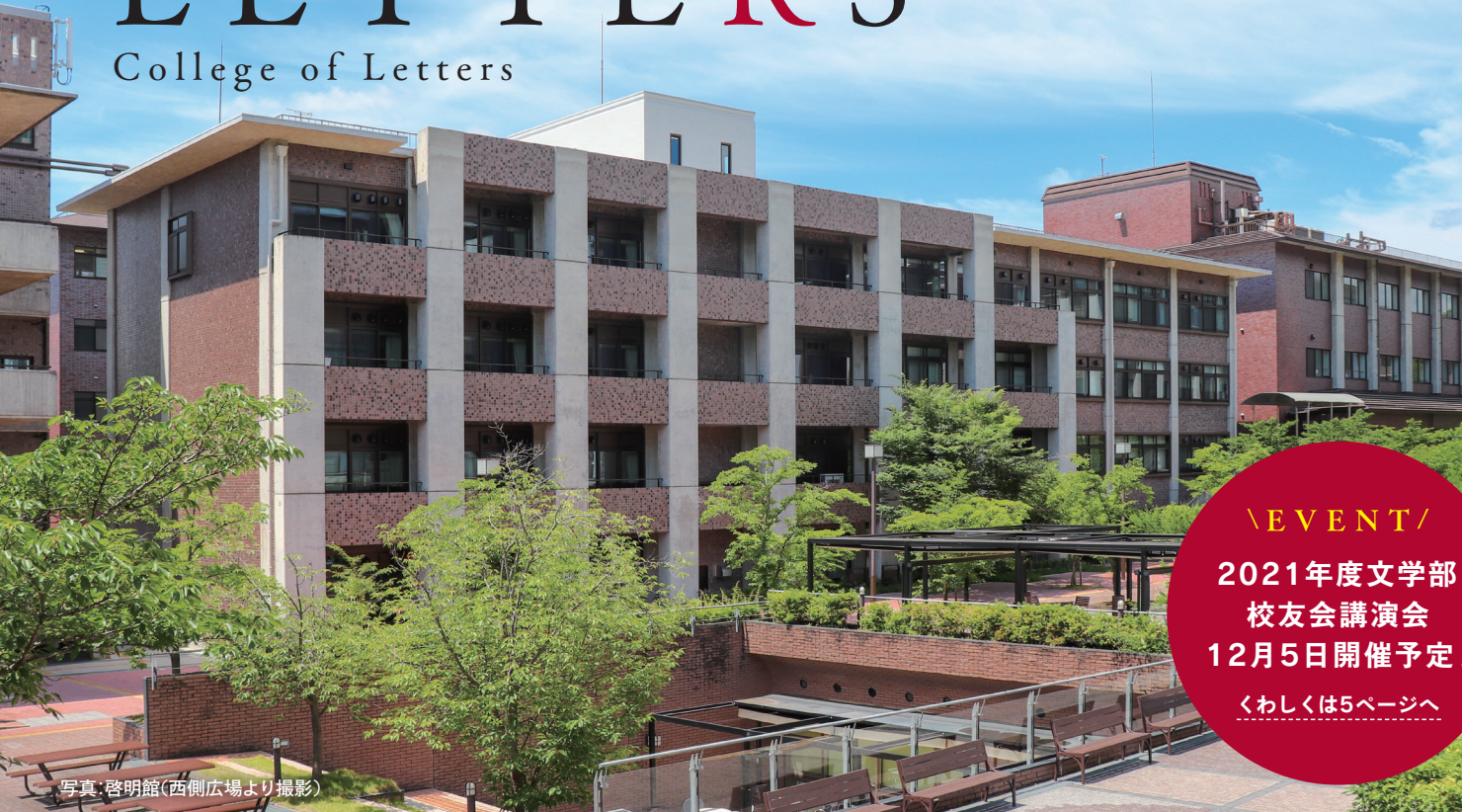


写真:啓明館(西側広場より撮影)

\\EVENT/

**2021年度文学部
校友会講演会
12月5日開催予定!**

くわしくは5ページへ

会長ご挨拶

コロナ禍になってから二度目の夏を迎えました。かつて想像だになかった状況の中で、学生の皆さま、そして校友の方々も困難な時期を過ごされたのではないのでしょうか。ワクチン接種も順次進みつつあります。早く、安心して活動ができ、社会的・経済的打撃が解消されますことを心から願います。

長期にわたり、それぞれが厳しい状況におかれている中で、文学部校友会では昨年10月に、学習や研究支援の一環として「図書カードネットギフト」を文学部生・文学部研究科生に支給いたしました。これは秋学期の授業に向けた教科書購入や、日々の学習のために活用されています。校友の皆さま方の後輩を思う温かいお気持ちが学生たちの不安を和らげ、前へ進む力となっています。そして、どのような状況でも立命館の学びをやめないという強い姿勢を支えてくださっていることに、心から御礼申し上げます。

現在、オンライン講義やリモートでのミーティングが広がりをみせ、働き方、生き方、そのものが見直されるようになってきています。直接顔を合わせる場が減少したマイナス面とともに、その一方で、さまざまな事情で参加できなかった方々が、オンラインによって負担なく参加

立命館大学文学部校友会 会長 **池坊 専好**

してくださるというメリットも生じているように感じます。

昨年の「オール立命館校友大会2020」は、すべてオンライン上での開催となり、「ライブ配信企画」「ライブ交流企画」「オンデマンド企画」で構成されたプログラムには多くの反響がありました。校友会としても学生時代に培われた絆が、これからも変わることなく維持できるように、そしてできるだけ多くの方々にご参加いただけるように取り組んでいきたいと考えています。

また、どのような状況でも屈しない、しなやかなたくましさ「レジリエント(resilient)」が、組織や企業、そして、それを構成する私たち一人一人に問われています。今回の経験から改めて私たちは多くの方々に支えられ、その中で共に生きている有り難さに思いを馳せ、さらに進化していけるのではないのでしょうか。引き続き、校友会活動にご理解いただき、お力を頂戴できますようよろしくお願いいたします。

- 2012年 文学研究科 人文学専攻博士課程前期課程 日本史学専修修了
- 華道家元池坊 次期家元

学部長ご挨拶

立命館大学文学部校友の皆さまには、日頃より学部へのご支援・ご協力を賜っております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして新型コロナウイルスの感染拡大によって影響を受けられた皆様にお見舞い申し上げます。

このような状況にもかかわらず、文学部校友会から文学部生・文学研究科生全員に多様な支援をいただいたこと、厚く御礼申し上げます。コロナ禍で経済的にも精神的にも苦勞をしている学生たちにとっては書籍購入用の金券のご支援は大きな励みになっております。学生たちからの感謝の声は本ページ下半をご覧ください幸いです。

振り返れば、この1年間文学部もその新型コロナウイルスに翻弄されました。昨年の春学期には授業は原則Web授業でしたが、秋学期には小集団授業をはじめとするおよそ7割の授業を対面型に戻すことができました。様々な事情で授業に出席できない学生のために、ライブ配信で授業を受けられるようにほぼ全教室にカメラとマイクが設置されました。一方で2019年度に文学部の基本棟である清心館の大規模改修をおこない、新しい文学部の学びに対応した協働学習(collaborative learning)施設としてのラーニング・コモンズが誕生したのですが、残念ながら昨年度の春学期には入構制限のため、その利用は制限されました。学生も教職員もこのような制約のある状

立命館大学文学部長 ^{なかがわ ゆうこ} 中川 優子



況のなかで学びと課外活動を継続すべく奮闘しました。2021年度春学期も4月後半より緊急事態宣言発出にともない、またもや原則Web授業となりましたが、入構制限はとられず、清心館のラーニング・コモンズには、毎日学生が、密にならないように、黙々と自らのパソコンで授業を受けている姿がみられました。そして2学域新設(2学域内に4専攻の新設)、2専攻の名称と教学内容の変更、専攻横断教学を図る2クロスメジャーの設置という新カリキュラムが2年目にはいり、2021年3月には啓明館の改修工事も終了し、「キャンパスアジア・プログラム」の共同研究室と国際コモンズも設置され、いよいよ人文学の教育の国際化を推進します。

2020年度の卒業式・学位授与式は、密を避ける形で執り行われました。卒業論文の作成や就職活動等で制約ある中で、900名を超える、新規の校友会会員の誕生を嬉しく思います。

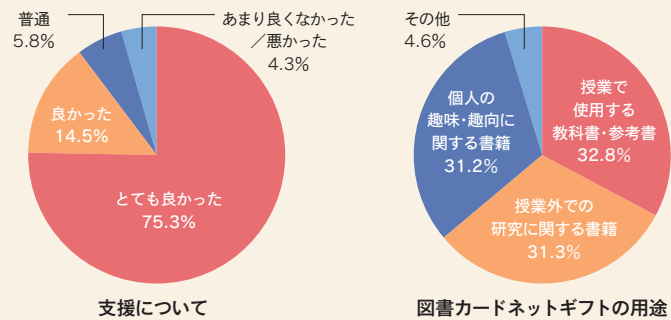
これまでの文学部、文学研究科の発展は、校友の皆さまの支えがなければ決してかなわなかったものです。改めて感謝申し上げますとともに、今後も共に学び、成長する文学部・文学研究科学生に対しての変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

「2020年度文学部校友会からのコロナ禍に対する学びの支援」について



2020年初めから流行し始めた新型コロナウイルス感染症により、多くの学生が学習や生活において様々な影響を受けました。このような状況を受け、文学部校友会では、「コロナ禍に対する学びの支援」として2020年10月、文学部生・文学研究科生 全4,201名に対し、5,000円の図書カードネットギフトを配布いたしました。

文学部生・文学研究科生へのアンケート結果



文学部校友会からのコロナ禍支援を受け、私は主に教科書購入に使わせていただきました。私は日本史学専攻として今後多くの古文



書を読む必要が出てくることから、くずし字辞典も購入しました。くずし字辞典については、今回の支援があったからこそ購入しようと思ったので非常にありがたかったです。

現在の学生生活の状況ですが、オンラインを中心とした、もどかしい日々が長く続いています。そんな中で卒論や就活などに目を向けていく学年となり、大学生活としての時間は進んでいないように感じても、社会や時間は進んでしまっているのだと虚しく思えてしまいます。でも、いつかそんな苦しい日々もあったねと笑って友人と話し合える日が来るまで、今できることを精一杯に取り組んでいきたいと思います。

日本史学専攻 3回生 ^{なば こうや} 那波 宏哉さん

「キャンパスでの感染防止対策」について

立命館大学は、厚生労働省が推奨する基本的な感染防止対策(①身体的距離の確保、②マスク着用、③手洗い)を取り入れた、「立命館大学における新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル」を策定し、それぞれのキャンパスで感染防止対策を講じています。

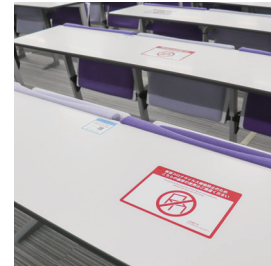
施設編



キャンパス入口に非接触型自動検温器を設置



消毒液の設置



固定の長机には座席の利用制限シールを設置



小・中教室の可動式長机は学生同士の距離を取りやすい小机に変更



教室出入口ドアにアームスライダーを設置

授業編



対面授業を行いながら同時にZoomでも配信可能。対面、ライブ配信、オンデマンドの3つの方法で授業に参加する方法を用意。



ウェブシステムを利用して授業内課題を提出。対面参加、オンライン参加、両方の受講生から送られた解答は即時集計され、モニターに表示。

2020年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会長賞

日韓における登り石垣について―機能と差異―

文学研究科 行動文化情報学専攻博士課程前期課程
考古学・文化遺産専修 1回生(受賞当時:考古学・文化遺産専攻 4回生)

^{きた ゆうすけ}
北 祐介

このような素晴らしい賞をいただき、本当に感謝します。

戦国時代、豊臣秀吉は朝鮮半島へ侵攻を開始しました。文禄・慶長の役と呼ばれる戦いは有名ですが、この戦いの中で朝鮮半島に日本式の城郭が築かれたことはあまり知られていません。倭城と呼ばれる日本式城郭は当時最高の技術が使用されましたが、登り石垣という特殊な形が取り入れられています。万里の長城を彷彿させる形はどのような機能があったのか、日韓で使用されるときに差異はどのようなものがあるのかを中心に考えました。

この大会で学んだ「物事を多角的に見る」という姿勢を大切に、現在は大学院で風鐸という鐘の研究を続けています。コロナによって不透明になった未来を、研究面から少し明るくできるよう日々努力しています。



2021年、 啓明館がリニューアルオープン！

カリキュラム改革に合わせ、文学部の基本棟である啓明館を全面的にリニューアルしました。
2020年に新しくなった清心館と一体的にゾーニングを再編し、歴史ある外観の趣は残しつつ、
内装を一新すると共に、老朽化した各種設備の更新を行い、より多様で、より充実した教学を展開できる空間の整備を目指しました。

結びあい
—コモンズ—

コモンズ「RiLICC(リリック)」
Ritsumeikan Letters International
and Creative Commons

世界各地から集まった留学生と「結びあう場」として、文学部の国際化に向けた活動の中核的機能を果たすラーニング・コモンズ

多様な学び
—教室—

受講者の多い講義に
対応可能な中教室

アクティブラーニングに対応可能な小教室
ICT設備も充実

ICT教育機能を含む多目的な
利用が可能なラーニングスタジオ

深い学び
—共同研究室等—

学芸員課程実習室

専攻ごとの共同研究室

総会実施形態 変更のお知らせ

2021年は2年に1度の文学部校友会総会開催の年です。今年は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、対面での総会は開催せず、文学部校友会HPに資料を掲載し、皆さまに広くご意見をお伺いすることで、総会開催に代えさせていただきます。※資料は2021年9月上旬より掲載予定です。

2021年度 文学部校友会 新清心館・啓明館完成記念企画 講演会のご案内

2020年6月に予定しておりました文学部校友会懇親会は
新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止とさせていただきます。
2021年度は、遠方にお住まいの方や、現地での参加が難しい方も、
ご参加いただけるWeb講演会企画をご用意いたしました。ぜひご参加ください。

また、当日は、衣笠キャンパスにて新しい清心館・啓明館をご覧いただくこともできます。こちらもご参加お待ちしております。

すべて 参加費無料

※2021年度は、
懇親会を
開催いたしません。

とき

2021年12月5日(日)

ところ

Web および 立命館大学衣笠キャンパス

※駐車場のご用意はございません。公共交通機関をご利用ください。

受付

Web…15:30～講演会終了／衣笠キャンパス…12:30～参加受付票にて受付締切時刻をご確認ください。

清心館・啓明館 内覧

Web

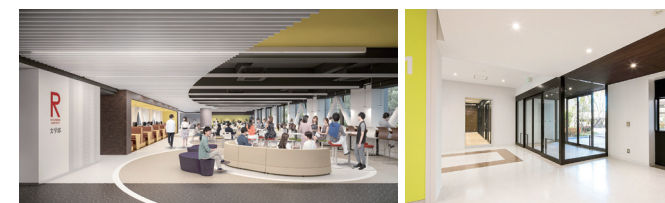
衣笠

事前申込不要

🕒 13:00～16:00

清心館1階受付でお渡しする館内マップを基に、自由にまわっていただけます。

特設展示コーナー | (1階コモンズ) 文学部の今昔スライドショー



図書館ツアー

Web

衣笠

事前申込要(先着順)

🕒 ツアー開始時刻は参加受付票にてご確認ください。👤 先着30名
2016年4月に開館した「平井嘉一郎記念図書館」を、現役学生
がご案内します。当日は、清心館1階受付でお渡しするパンフレットの
提示で、自由にご入館・ご見学いただくこともできます。



講演会

Web

衣笠

事前申込要(先着順)

🕒 16:00～17:00

📍 清心館4階SE401号教室

👤 衣笠:先着100名／

WEB:先着500名

司会: 文学部教授 ^{かわはら のりふみ} 河原 典史先生
(地域観光学専攻)



「清心館物語」

文学部名誉教授 ^{ふじ けんいち} 藤 健一先生(心理学専攻)



「歴史都市時空間散歩」

デジタル人文学の視点から
文学部教授 ^{やの けいじ} 矢野 桂司先生(地理学専攻)

参加申込方法

Web 申込

▶ 立命館大学文学部校友会 HP ▶「イベント」▶「懇親会参加申込」(<https://secure.ritsumeui.ac.jp/forms/italumni/events/>)からお申し込みください。

ハガキ 申込

▶ 文学部校友会報「LETTERS vol.13」折り込みのハガキに必要な事項をご記入のうえ、ポストへ投函してください(切手不要)。

※定員に達し次第、受付を締め切らせていただきます。受付状況等は文学部校友会HP、Facebookにて随時お知らせいたしますので、ご覧ください。
※衣笠キャンパスでの企画にお申込みの方には11月中旬(予定)より順次、参加受付票を郵送します。
※Web講演会にお申込みの方にはZoomのURLをお送りいたします(Web講演会のみにお申し込みの場合は参加受付票の郵送はございません)。



申込期限

2021年10月29日(金)
〈必着〉

【お問合せ先】立命館大学文学部校友会事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8187 FAX:075-465-8188
E-Mail:italumni@st.ritsumeui.ac.jp HP:<http://www.ritsumeui.ac.jp/italumni/>

『アメリカの人種差別に基づく暴力の歴史』

当たり前の風景が
人種格差につながっている

——先生のご専門分野は、アフリカ系アメリカ人の歴史と文化、中でも「人種差別に基づく暴力の歴史」ということですが、アメリカで昨年、黒人のジョージ・フロイドさんが白人警察官に殺された事件に端を発した「Black Lives Matter (BLM)」運動が世界的な広がりを見せましたね。

坂下 日本でも「黒人の命は大切だ」と訳され、多くの報道がなされました。しかし「Lives」という言葉は、被害者の命だけを指すものではありません。歴史的に住宅差別や投票妨害、職務質問や不当逮捕も多く、常に監視され、脅かされてきた黒人の生活そのものが「Lives」には含まれているからです。それは単に個人的な偏見の問題ではなく、奴隷制の時代から人種差別が組み込まれてきたアメリカ社会の構造的な問題です。BLMは、



ワシントンDCのキング記念碑にて▲

それを変えようとする運動なのです。——今の出来事が過去からつながっていることも知らなければならないのですね。

坂下 昨年、BLM運動の中で、南北戦争で奴隷制を擁護した南軍の英雄を顕彰する銅像が撤去されました。関係ない問題では？と感じた方がおられるかもしれませんが、実は深い関係があります。構造的に人種差別を維持しようとした人々を顕彰する銅像が今でも多数ある一方で、黒人の苦しい経験を記憶する記念碑や銅像はほとんど存在しないという事実、そして、人々がそれを当たり前風景として受け入れてきたことが、現在の人種格差につながっているからです。——気づかない間に格差を受け入れ、固定してしまう状況が作られてきたということですね。昨年のBLM運動によって、問題は解決の方向に近づいたのでしょうか？

坂下 最初に「Black Lives Matter」という言葉が生まれたのは2013年。翌年に大きな抗議運動があり、昨年にもあった。それは問題が解決していないということです。ただ、BLMという言葉が生まれた頃から、オンラインのコミュニティが多く作られ、そこで歴史的な経緯を学んだ人々が、自分のコミュニティで草の根の活動を行うようになっていきます。例えば投票妨害に対抗して、黒人の有権者登録を推進する地道な活動が、大統領選挙の結果にも影響を与えたのだと私は考えています。

黒人への「リンチ」がどう記憶され、
歴史認識が作られたかを研究

——先生が今取り組んでおられる研究はど

のようなものですか？

坂下 19世紀末から20世紀前半に頻発した、黒人への「リンチ」と呼ばれる人種致死暴力がどのように記憶され、歴史認識を形成したかについての研究です。リンチに関する博物館の展示、記念碑、街のオブジェなどが、どこに、どのように展示されているかを調査し、それが公的記憶形成にどのように影響してきたかを検討しています。——研究の中で感じておられること、大切にされていることはありますか？

坂下 驚くべきことに、リンチ被害者のほとんどは処罰を受けていません。被害者の遺族や子孫にとっては、加害者が罰せられていない以上、たとえ100年前の事件でも「過去の話」ではないのです。人種暴力の歴史は現代につながっているということを強く感じます。

リンチは事前予告によって見物人の前で行われ、そこで撮られた遺体写真は興味本位に流通していきました。強烈なインパクトがあるこうした写真の展示は、事件の凄惨さを後世に伝えるものであると同時に、犠牲者や遺族を冒瀝し続けるものかもしれません。SNSの時代に、戦争や暴力の歴史を伝える視覚資料をどう扱うべきなのかは、人類の普遍的な問題だと思います。研究に当たってはその視点を忘れないようにしたいと考えています。

PROFILE

神戸女学院大学文学部卒業、同志社大学大学院アメリカ研究科博士前期課程修了、博士後期課程単位取得満期退学、米ミシガン州立大学院文芸研究科アメリカ研究プログラム博士課程修了。博士(アメリカ研究)。関西外国語大学外国語学部講師、立命館大学文学部准教授を経て、2019年より現職、2020年より文学部副学部長。家で過ごす時間には、スパイシーなエスニック料理を作ったりして楽しんでいる。(写真は手製のジャマイカ料理、牛テールシチューとライス・アンド・ピース)



文学部校友の「いま」



農業界に新風を

滋賀県近江八幡市にある8,000㎡の先進型ビニールハウスでトマトをつくっています。

私は3年前まで都市銀行で中小企業向けの融資課長として勤務していましたが、日々目の前の社長陣と接する中で「いつか自分も経営者になりたい」という願望がありました。元々食に興味があったことから農業に興味を持ち、銀行員の傍ら週末農業スクールに通い、農業経営者を志しました。家族を説得し銀行を退職、当時住んでいた横浜のマンションも売却し、妻の出身地である滋賀県に移住しました。そこでトマトの養液栽培技術を学ぶために研修に入ったのが、現在の当社です。当時の社長(前社長)と仲良くなるに連れ、後継者が居ない事を知り、銀行員時代に後継者難で廃業する町工場等も見て来た事から、思い切って「会社を私に任せてもらえないか」と前社長に提案したところ、快く引き受けて頂き、昨年10月に農業界ではまだ珍しい「第三者承継(M&A)」という形により、私が代表に就任しました。

農業界は社長の平均年齢が70歳前後と高齢化が進んでおり、経営継続難となるケースが加速しています。青年層の取り込みが喫緊の課題ですが、一から農地や設備を揃えるとなると資金も労力も膨大。先代が培った圃場や販路をそのまま使える第三者承継という選択肢を世に広め、農業界の若手を増やして行きたいと考えています。

せきざわ せい しろう
関澤 征史郎

浅小井農園株式会社 代表取締役社長
人文総合科学インスティテュート
2003年卒業

おおく ぼ ことえ
大久保 琴江

温泉旅館若女将
兼 タレント・ミュージシャン
中国文学専攻 2012年卒業

自分自身が、名物という発信力になることで
起きる「一石二鳥」

私は今、生まれ育った滋賀県高島市で家業である温泉旅館「宝船温泉 湯元ことぶき」の若女将 兼 タレント・ミュージシャンとして活動をしています。時には「アイドル若女将」と呼んでいただけることも。

元々音楽が好きだった私は、立命館大学在学中からバンド活動などをしておりました。卒業し、若女将として温泉宿に入りましたが、それでも続けていた音楽。どちらも諦めたくない私は、「一石二鳥になるように」と、音楽ではライブハウスで宝船温泉の手ぬぐいを配ったり、名物土産を売ったりをし始めました。

地道でしたが、少しずつ周知が増え、たびたびメディアに取り上げていただけるように。そして掲載された雑誌や新聞などを宿に飾り、宿でもCDを販売する。すると、宿にお越しの方にわたしの存在や音楽を知っていただける。それこそ、私の思う「一石二鳥」でした。閑散期にはファンの方と宿を貸切にしたイベントをしたりなど、常に効率を考えつつ好きなことと仕事を両立しています。

今はコロナ禍ですが、「配信ライブやサイン付きの宝船温泉お取り寄せ」の販売など新しい企画で今も元気に一石二鳥!の精神で頑張っています。コロナ禍という苦しい状況も、明るく機転を利かせ乗り越えていきます!

“「Black Lives Matter (BLM)」は、
奴隷制の時代から人種差別が組み込まれてきた
アメリカ社会を変えようとする運動です。”